

## ボリビアの飲料水供給に貢献、レアックス社（札幌市）

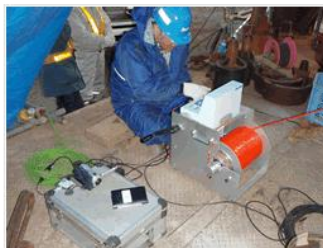
－井戸診断技術の導入・普及により給水施設の長寿命化促進維持管理能力の向上を図る－

国際協力機構（JICA）は9月2日、北海道札幌市の株式会社レアックス（亀和田俊一社長）による、井戸診断による長寿命化に関する案件化調査を仮採択としました。

ボリビアでは、貧困地域及び地方部における飲料水供給率が低く国家的な問題となっています。こうした状況を踏まえ、日本政府は長年にわたる井戸開発と技術協力を行ってきました。しかしながら、ボリビア側の給水関連施設に対する維持管理は必ずしも適切とは言えない現状にあります。特に地下構造物であり日頃目に触れることのない井戸については、維持管理が適切に行われず、経年変化により最悪の場合、使用できなくなることが懸念されています。

札幌市にある株式会社レアックスはボアホールカメラを製造している中小企業であります。このカメラは井戸内部を可視化することができるもので、目詰まりや故障の状態を確実に視認し、効率的な修繕をすることが可能となります。

今回、同社はボリビアにこのカメラ（i-Do300FII）を導入することで、既存の井戸の維持管理能力が向上する可能性を調査します。また、ODA 案件化とビジネス展開の実現性が明らかとなり、ボリビアにおける井戸の長寿命化が促進することが期待されます。



### 井戸内観測の様子

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。

案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2014年度は本年5月に公示を行いました。

176件の応募のうち26件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。